

《どうでもいい話、その 575》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

前にも話しましたが「もて期」というものが何年かに一度周期的にあります。今年も年明けからやってきました。ただ相手は子供たちです。毎日1時間から2時間、コースを変えて散歩をしながら途中の公園で体操をするのが日課ですが、正月早々、公園で体操をしていたら、二人の女の子が寄ってきて「おじちゃん、これあげる」とお菓子を貰いました。歳を聞くと小学校1年生と2年生で、たまたま私がボランティアに行っている小学校に通っており「〇〇先生知っている？」「あー、知っている1年生の時の担任だった」とか「イケメンの△△君知っている？」「知っている。近所に住んでいる」「△△君好き？」「普通！」など話しがはずみました。また別の日に、幼稚園の前の公園で体操していたら柵の向こうの幼稚園児女の子3人が「おじちゃん、なにしているの？」と声をかけてきました。「体操しているんだよ」と答えたら「おじちゃんいくつ？」と聞いてきて「77歳だよ。みんなはいくつ？」に、ひとりが「5歳」と二人が「6歳」と答え「かわいいね」と言うと「おじちゃんもかわいいね」だって。そのまた別の日に、河原の側道を歩いていた時、広場で遊んでいた10歳ぐらいの女の子5～6人が寄ってきて「あれ、〇〇くんのお父さんじゃない？」と問いかけてきたので「いや、岩波くんのお父さんだよ」と答えました。この歳なのにみんな「おじちゃん」とか「お父さん」と呼びかけてくれたのがうれしい～！！

岩波より